資料８ 施設部ホームページ

（http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~shisetu/index.html）

>>> 施設部って何？

>>> 施設部って何？

筑波大学のキャンパスには、たくさんの建物がありますが、誰が作り、誰が守っているのでしょうか？
それは、施設部と呼ばれる建築・土木・電気・機械等を専門とするいわゆる技術系の組織があります。

その施設部は、企画課、建築課、設備課、環境保全課の4課からなっていて、
筑波大学の校舎・研究棟などの施設整備のため、以下のような仕事を行っています。

- キャンパス全体にわたる長期計画に関すること
- 予算の要求・執行に関すること
- 建物のプランニング及び実施設計に関すること
- 施工監理・保守管理に関すること

>>> 企画課

- 施設設備の長期計画に係る企画立案、情報収集、連絡調整、調査報告、諸許可手続きに関すること。
- 施設整備に係る予算要求に関すること。
- 実験環境に係る法規上の手続き、監督官庁等の連絡調整に関すること。
- 工事の入札及び請負契約事務に関すること。
- 工事関係諸法規に関すること。

>>> 建築課

- 建築物、園地、広場、緑化整備等に関する施設（以下「施設」という）に係る調査・計画・設計・積算・施工監理・検査の立会いなどに関すること。
- 施設の営繕工事及び維持管理・維持保全に関すること。
- 施設に係る技術資料の収集・調査に関すること。

>>> 設備課

- 電気、情報通信、防災電気、エレベーター等に関する設備（以下「電気設備」という）に係る調査・計画・設計・積算・施工監理・検査の立会いなどに関すること。
- 電気設備の運転・点検及び保守に関すること。
- 電気設備のデータの収集・調査及び分析に関すること。
- エネルギー（電気）の使用に関すること。
- 電気設備に係る技術資料の収集・調査に関すること。

>>> 環境保全課

- 給排水衛生、ガス、搬送、空気調和、冷暖房等に関する設備（以下「機械設備」という）に係る調査・計画・設計・積算・施工監理・検査の立会いなどに関すること。
- 機械設備の運転・点検及び保守に関すること。
- 実験廃棄物処理施設の保守管理に関すること。
- 水道法に係る水質維持に関すること。
- 機械設備の各種データの収集・調査及び分析に関すること。
- エネルギー（熱）の使用に関すること。
- 機械設備に係る技術資料の収集・調査に関すること。

筑波大学には、施設部以外にも、病院地区については、病院部管理課、附属学校については、
学校教育事務部管理課に施設整備のための係があります。

>>> 最近完成した建物等の紹介

彫刻の設置

彫刻　彫刻（作者と）

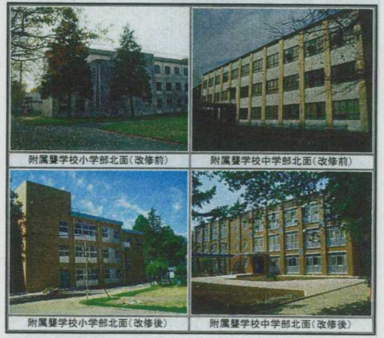
【作品名：Air Plants】

遺伝子実験センター

遺伝子実験センター（全景）　遺伝子実験センター（玄関）

【新規建物：遺伝子実験センター】

附属聾学校



附属聾学校小学部北面（改修前）　附属聾学校中学部北面（改修前）

附属聾学校小学部北面（改修後）　附属聾学校中学部北面（改修後）

【改修建物：附属聾学校】

筑波大学
University of Tsukuba

>>> 施設部って何？
施設部は、企画課、建築課、設備課、環境保全課の4課からなっています。

>>> 施設部からのお知らせ（学内向け）
工事・停電・断水のお知らせや、修理の受付方法等の連絡事項です。

>>> 最近完成した建物等の紹介
最近完成した建物等の紹介です。

>>> 工事発注の見通しの公表
工事発注の見通しの公表について紹介します。

>>> キャンパスリニューアル計画
キャンパスリニューアル計画を紹介します。

>>> キャンパスの情報
キャンパスの配置図・航空写真を紹介します。

>>> 施設委員会の情報
施設環境の整備及び維持管理に関する審議内容を紹介します。

>>> トピックス
最近の出来事を紹介します。

>>> リンク
施設部関連のホームページを紹介します。

Copyright (c) 2001 筑波大学
<編集>筑波大学施設部企画課
<照会先>TEL:0298-53-2275 / e-mail: kikakuka@sec.tsukuba.ac.jp

>>> キャンパスリニューアル計画

>>> キャンパスリニューアル計画

（1）なぜ今キャンパス・リニューアルなのか

本学は、我国でも有数規模のキャンパスを有しています。教育研究基盤であるこれらの施設を有効に活用し、良好に維持管理することは重要な課題です。

しかし、開学28年を経て施設の老朽化、機能低下が進行しており、現在、経年25年以上のものが全体の48%を占め、国立大学の平均を上回る状況です。特に、筑波キャンパスは一時期に集中的に整備されており、これらが一斉に老朽化を迎えている現在、計画的な改修整備と維持保全が緊急の課題となっています。

また、この間の教育研究の進展や大学改革の推進等により、施設に対するニーズも変化してきており、見直しや改善が必要な点も多くあります。

例えば、本学では大学院博士課程の改組再編が行われていますが、この改組再編は全ての学系・博士課程研究科に及んでおり、施設的にも従来の枠組みを超えた再配置・相互の機能関連の確保が必要です。

そして、何よりもキャンパスは本学全員の活動基盤ですから、本学の構成員の全てが満足でき、誇りを持てるようなキャンパスの形成は、本学の重要課題であり全員の願いです。

本学のキャンパスは、現在においても恵まれている方ですが、これを生かしながら、更により良いものとして行くため、キャンパスリニューアル計画を進めたいと考えます。

（2）キャンパス・リニューアル計画の概要

キャンパスに求められる多様で多くの課題に対応するため、「施設委員会」では平成12年9月に、点検・評価に基づくキャンパス再整備計画「キャンパスリニューアル計画」の策定を決定し、このための検討組織を設けました。検討組織は部会長（冨江副学長）の下に、分野別に5つのワーキンググループを設け、ここに教官・学生及び施設部職員が参加し検討作業を行っています。

本計画は、キャンパスを総点検し、アメニティに優れ本学が目指す教育研究活動と一体となって機能するキャンパス再整備計画の策定を目的としており、13年度中にまとめることとしています。

キャンパスリニューアル計画は、今後の施設計画・整備に際し、本学のキャンパスに求められる人間性、文化性豊かな教育研究環境を創造するため、土地利用等を始めとする空間構成とエネルギー及び交通等の骨格形成の方針を提示するものであり、同時に、今後形成される「キャンパス像」を大学全体で共有するためのものです。

なお、計画の立案にあたっては、以下の諸点を基本的考え方としています。

1. 本学の建学の理念、将来像・将来計画を踏まえ計画する
2. 点検評価を踏まえ、施設の活性化が図れる計画とする
3. 既存の施設・キャンパス環境を最大限活用する
4. 国及び社会の期待や要請に応えられる計画とする
5. 本学の立地（研究学園都市の知の集積、常磐新線の計画等）を生かした計画とする
6. 全学が共有でき、全学が参加する「キャンパス造り運動」として位置づける

（3）平成12年度の成果（アクションプラン）

キャンパス・リニューアル計画は、実行計画（アクションプラン）の策定を含んでおり、その実行は改善計画の立案を待たず、その過程において実施可能なものを順次行うこととしています。

平成12年度は次の事業を実施しました。

1. 概算要求により実施した事業
   - ・中地区総合研究棟の整備（大学院重点化等に対応する本学初の総合研究棟、工事中）
   - ・高速キャンパス情報ネットワークの整備（ギガビットLANに対応する光ファイバーの敷設、工事中）
2. 学内予算措置により実施した事業
   - ・第2学群食堂のリニューアル＆アートワーク（学生参加による食堂の改善）
   - ・キャンパス・バリアフリー化事業（学生グループによるキャンパス点検評価を受けての改善整備）
   - ・人間系学系棟前スロープのリニューアル（自転車と歩行者の事故多発部分の改善整備）
   - ・停電対策整備（停電時の復電時間の大幅な短縮化）
   - ・非常用電話機の整備（学内の安全・安心のための整備）
   - ・ボイラー用燃料の低公害化（環境にやさしいキャンパス整備、窒素酸化物排出量を前々年度比80%削減）
3. ボランティア等により実施した事業
   - ・ミューズガーデンの整備（ボランティアによる憩いの広場の整備）
   - ・本部玄関ロビーの整理整頓（ボランティアによる本学の顔の整備）

大学院重点化等に対応する建物で、従来の研究科や学系の枠組みを超えた分野の連携を確保するとともに、先端・学際領域の教育研究を支援する施設として計画しました。プロジェクト研究等を行う全学共有の実験スペース（レンタル・ラボ）もあります。

キャンパス・リニューアル計画の一環として第2学群食堂のリニューアルを教官・学生・食堂の人たち・施設部の参加のもと、よりよい食堂にするための改修を行いました。

（4）これからのアクションプランについて

キャンパスリニューアル計画を推進するため、今年度、新たに「環境整備費」が創設されました。この予算は、キャンパス美化やアメニティ向上など、本学が良好なキャンパス環境を学生・教職員に提供するためのものであり、今後は、これにより計画的に施設整備を進めることができます。

また、キャンパスリニューアル計画では、今までも全学参加型の活動として、ワークショップの開催やデザインコンペなどを行ってきましたが、さらに多くの人の提案を募るため、今年度「キャンパスリニューアルのためのアイディア募集」を行います。

アクションプランの実施やアイディア募集に、皆さんも一緒にキャンパスリニューアル計画に参加してみませんか。

>>> 本学の施設
本学の施設の現況及び将来

>>> 施設の現況

キャンパスの施設建設は、マスタープランに従って、昭和46年に南ゾーンの運動場施設の建設から始められました。

以後、スケジュールに従って、年々施設の整備が進められ54年度末には都市の主要施設と歩調をあわせ当初計画の概略を完成しました。

現在、西ゾーンには、附属病院、医学専門学群棟、医学系学系棟、医学図書館、医科学修士棟等、医学関係施設、及び医学に関係の深い生命科学動物資源センター、陽子線医学利用研究センターがあり、その東側の居住地区には、平砂・追越の二つの学生宿舎群2,349戸が、それぞれ生活センターを中心に、二つのコミュニティを形成しています。

また、平砂地区では生活センターの西側に非常勤講師等宿泊施設が、追越地区では、生活センターの西側に、看護婦宿舎、南側に客員研究員等宿泊施設、外国人教師等宿泊施設の居住施設が設けられています。

南ゾーンでは、体芸中央棟、芸術専門学群棟、総合体育館、図書館、食堂が、2階の高さのペデストリアン・デッキと斜面を利用した造園植栽とで構成された広場を囲んで設けられています。

ここから東西に延びるペデストリアン・デッキにそって、芸術学系棟、工房、体育科学系棟、共同研究棟（B）、体育センター、体育系サークル館が設けられ、その南に屋内プール、球技体育館及び武道館が、さらに東側には、サッカー場、ラグビー場、野球場及び全天候舗装の陸上競技場、テニスコート、ハンドボールコートなどが体育合宿所とクラブハウスと課外活動練習施設（音楽関係）を囲んで配置されています。

また木造の大型建築による開学記念館が、ループ道路の西側に設けられています。

くびれの部分には、保健管理センター、学術情報処理センター、外国語センター、教育機器センター、留学生センターと大学会館・講堂が設けられ大学のサービスの中心として使用されています。

中ゾーンでは、第一学群棟が、南側に開けた広場に面して設けられています。

この西側には、自然系学系棟、計算物理学研究センター、東側には、文化系サークル館が設けられて、第一学群と一体的な施設群を構成しています。

また第一学群から北にのびるペデストリアン・デッキと、それにつづくメイン・プラザをとりまいて、中央図書館、人文社会学系棟、人間系学系棟、共同研究棟（A）、文化系修士棟、理科系修士棟、第二学群等、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、第三学群等、工学系学系棟、生物農林学系棟、バイオシステム研究科棟、遺伝子実験センター、一般体育館等が設けられ大学の中心地区として、アカデミック・コアを形成しています。

このアカデミック・コアの東には、大学本部棟・西には、供給処理設備の中心施設であるエネルギープラントの二つの大学運営の中枢機能が設けられています。

また、エネルギープラントの北側は、センター地区となっており、加速器センター、低温センター、陸域環境研究センター（旧水理実験センター）、アイソトープセンター、分析センター、工作センター、プラズマ研究センターが設けられています。

さらに、アカデミック・コアの北には、先端学際領域研究センターが設けられています。

北ゾーンでは、農林技術センターの諸施設と実習フィールド及び植物見本園が配置されています。

この東側には、北の居住地区（一の矢学生宿舎）があり、単身用と世帯用の学生宿舎1,466戸が、生活センターを中心に、一つのコミュニティとして設けられています。

東ゾーンでは、課外活動練習施設として馬場・厩舎が設けられています。

構内には、電力、給水、通信・情報などサプライのための共同溝が整備されています。

この他、筑波地区以外にも、下田臨界実験センター、菅平高原実験センター、八ヶ岳及び井川の演習施設などの教育研究施設や、山中共同研修所、石打研修所、館山研修所などの研修施設等の大学施設と大塚地区の学校教育部によって統括される10校にのぼる附属学校があり、それぞれ活動を続けています。

>>> 施設の将来

大学の運営にともない、今後、種々の施設需要が起こってくることが予想されますが、その需要は総合的に検討され、既存施設との関係を十分に考慮し、あらかじめ計画的に配置された増設空間に建設されていきます。

又、キャンパスは、細部では未整備の部分も残っており、管理運営のシステムとあわせて充実をはかる必要があります。

造園・植栽等については、現在、自然環境の維持修復を図っております。

いずれにしても今後は施設を利用しながら施設をより充実させる必要があり、大学人全体が、良識と知恵をはたらかせながら効果的な空間利用をはからなければなりません。

筑波地区には現在303棟、約延べ64万m^2の建物が整備されていますが、この施設の機能を十分に発揮させ、今後の教育および研究に活用させる必要があります。

経年による施設の老朽化、陳腐化に対処するには、適正且つ、経済的な施設の保全や改善と共に、全大学人が施設の維持に関心を持っていただき、施設を大切に、そして積極的に活用してください。

>>> キャンパスの情報

>>> キャンパスの情報
本学の施設、土地・建物の紹介と、筑波キャンパスの配置図・平面図・航空写真を紹介します

>>> 本学の施設
本学の施設の現況及び将来

>>> 配置図
筑波キャンパスの配置図

>>> 平面図
筑波キャンパスの建物の平面図（学内向け）

>>> 航空写真
筑波キャンパスの鳥瞰写真

>>> 筑波キャンパスの街路樹の写真
ゆりのき通り
かえで通り
すずかけ通り
からまつ通り
けやき通り

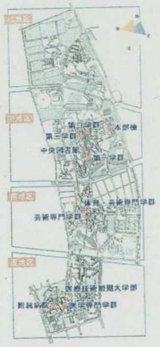
>>> 土地・建物

種　目	土　地　m^2	建　物　m^2
筑波地区	2,463,572	644,802
校　地	586,620	
運動場	332,552	
農　場	364,409	
居住地	432,121	
緑　地	536,092	
交通サービス	211,778	
農林技術センター 八ヶ岳演習林	2,734,112	1,199
農林技術センター 井川演習林	6,639,767	683
下田臨海実験センター	18,863	3,457
菅平高原実験センター	350,552	2,575
学校教育部 理療科教員養成施設	25,238	18,800
附属小学校	25,168	10,510
附属中学校 附属高等学校	50,197	16,324
附属駒場中学校 附属駒場高等学校	34,349	12,130
附属坂戸高等学校	72,658	17,966
附属盲学校	12,611	12,366
附属聾学校	42,320	14,474
附属大塚養護学校	5,103	3,880
附属桐が丘養護学校	16,383	9,581
館山研修所	2,104	910
石打研修所	83,571	1,420
山中共同研修所	48,602	1,168
戸田艇庫・合宿所	1,853	675
宿舎外	17,749	8,325
合　計	12,624,372	781,043

※土地面積は、国立学校全体の約1%を所有及び借用しています。
※建物面積は、国立学校全体の約3%をもっています。

>>> 配置図
筑波キャンパスの配置図

全容，地区別概観（詳細地図.pdf（1.6MB））
それぞれの地区をクリックすると拡大図が現れます．



>>> 筑波キャンパスの街路樹の写真

>>> 航空写真
筑波キャンパスの鳥瞰写真